

## 第12回 地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会 議事概要

1. 日 時：令和2年11月20日（金）14:00～16:00

2. 場 所：オンライン開催

3. 出席者

・[委員]

産業界

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 赤渕 明寛 | 特定非営利活動法人 Digital 北海道研究会 理事        |
| 及川 雅博 | (一社) 日本写真測量学会 北海道支部 役員             |
| 雫石 和利 | (一社) 建設コンサルタンツ協会 北海道支部 情報委員会 委員長   |
| 藤原 達也 | (一社) 北海道産学官研究フォーラム 副理事長            |
| 山川 昇  | (一社) 北海道測量設計業協会 会長                 |
| 田中 和之 | (公社) 日本測量協会 北海道支部 技術センター長 (山口委員代理) |

学界

|            |                   |
|------------|-------------------|
| 橋本 雄一 (座長) | 北海道大学 大学院文学研究院 教授 |
| 金子 正美      | 酪農学園大学 農食環境学群 教授  |
| 村上 亮       | 北海道大学 名誉教授        |

官 (公的機関)

|       |  |
|-------|--|
| 西村 敦史 | 国土交通省 北海道開発局 事業振興部 技術管理課 技術管理企画官<br>(柳原委員代理) |
| 中野 雅博 | 北海道 建設部 建設政策局 建設政策課 政策調整担当課長<br>(天野委員代理)     |
| 清水 英征 | 札幌市 建設局 土木部 維持担当部長                           |
| 橘 悠希子 | 国土地理院 北海道地方測量部 部長                            |

・[顧問]

|       |            |
|-------|------------|
| 山村 悦夫 | 北海道大学 名誉教授 |
|-------|------------|

・[話題提供者]

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 山中 伸朗 | 福岡県 直方市 総合政策部 企画経営課 参事補 |
|-------|-------------------------|

・[事務局]

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 清水 乙彦 | 国土地理院 北海道地方測量部 次長        |
| 湯本 景一 | 国土地理院 北海道地方測量部 地理空間情報管理官 |
| 磯部 裕介 | 国土地理院 北海道地方測量部 測量課 測量係長  |
| 川村 康介 | 国土地理院 北海道地方測量部 測量課 測量係   |

4. 議事

1) 話題提供 1

- ・「国土地理院の災害対応の最新動向」

国土地理院北海道地方測量部地理空間情報管理官 湯本景一

2) 話題提供 2

- ・「地理空間情報と防災 ―産学官研究フォーラム防災情報部会の活動報告より―」  
一般社団法人北海道産学官研究フォーラム副理事長 藤原達也

### 3) 話題提供 3

- ・「直方市における災害時の GIS 活用」

福岡県直方市総合政策部企画経営課参事補 山中伸朗

### 4) 意見交換

### 5) その他

## 5. 配布資料

- ・ [資料 1] 第 12 回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会委員名簿  
地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会設置要綱
- ・ [資料 2] 国土地理院の災害対応の最新動向
- ・ [資料 3] 地理空間情報と防災
- ・ [資料 4] 直方市における災害時の GIS 活用

## 6. 議事の経過

資料 2～4 に沿って話題提供が行われた。話題提供を踏まえて行われた意見交換は、以下のとおり。

- ・ 被災地調査活動を支援するため、作業の効率化、位置情報を含む活動状況をリアルタイムに把握することが可能なアプリケーションの開発を進めている。
- ・ 浸水想定区域図や土砂災害警戒区域図の作成に地理空間情報を活用しているほか、平常時の管理パトロール等で使用しているマップシステムを災害時にも活用している。
- ・ 平成 30 年北海道胆振東部地震の発生後に札幌市清田区内の既設の 3 級基準点、4 級基準点、札幌市公共基準点、街区基準点の調査測量を実施し、清田区全域に地震の影響が及んでいることが明らかになっている。
- ・ 地方公共団体等の防災業務に資するため、公共測量手続きや測量結果の品質確保に関する講習会を開催している。多くの地方公共団体の担当者に参加していただけるよう周知にご協力いただきたい。
- ・ 令和元年台風第 19 号の災害復旧業務の支援を行い、現地での調整や迅速な作業の遂行等、貴重な経験を得ることができた。今後も災害時における応援活動を継続していきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、セミナーやハンズオン講習会等の開催が難しい状況となっている。リモートセンシング分野で受託したプロジェクトの遂行やオンラインを主体としたイベントの開催、実証実験等を通じ、技術者の育成及び技術研鑽に努めていきたい。
- ・ オンライン参加と現地参加を組み合わせたハイブリット形式でのイベントを開催し、高い評価をいただいた。測量業界においては ICT が広く活用されており、リモートワークや新しい働き方改革を真っ先に実現できるのではないかな。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を良い方向に動かすことができれば、様々な場面でより良い対応を取ることができるようになるのではないかな。
- ・ デジタルトランスフォーメーションというのは我々自体も変わらなければいけないと考えており、新型コロナウイルス感染症による影響をマイナスとして捉えるのではなく、プラスに捉え、オンラインツールを活用した活動等をより進めていくことが求められているのではないかな。
- ・ 地理院地図について、防災・減災の面でさらに活用することを見据え、全国を実測で 1 / 2,500 縮尺で整備することを強く切望する。
- ・ 北海道は、オープンデータの取組が全国的に見て遅れているため、様々なデータの公開を順次進めていきたい。このオープンデータの取組と SDGs の進捗評価を組み合わせることにより、SDGs の進捗を定量的かつ科学的に評価することができるのではないかな。
- ・ 昨今の目覚ましい技術発展によって高精度な GNSS 機器の低価格化等が進んでいる。従来

は、地すべり、地盤沈下、土地の陥没などの観測は公的機関に頼るしかなかったが、今後は、町内会や個人のレベルでも、自力で日々の位置情報を観測し、予兆の有無を調べるといった防災対策（自助）の幅が広がる可能性があるのではないか。このような流れが定着することも、安全な国づくりの一助になるのではないかと。それも地理空間情報の社会への貢献の一つと思う。

- ・ 準天頂衛星が 7 機体制になることで精度の向上が見込まれているほか、ドローンやオンラインツールといった新たな技術が登場しており、これらの活用を大いに進めていただきたい。
- ・ 懇談会が始まった当初はシステムの構築やデータの更新、蓄積というものが議題の中心であったが、今ではどのように活用していくかという段階にきている。目覚ましい進歩であり、この歩みを止めないよう進むことを期待したい。

意見交換終了後、事務局から今後のスケジュール等についての説明を行った。